

メアリー・カサット展

記念シンポジウム「印象派の広がり」

7月31日（日）開催！



《栈敷席にて》（部分） 1878年、油彩・カンヴァス、ボストン美術館蔵
The Hayden Collection—Charles Henry Hayden Fund, 10.35. Photography ©2015 Museum of Fine Arts, Boston

横浜美術館で開催中の展覧会「メアリー・カサット展」を記念して、シンポジウムを開催します。カサットは、アメリカのコレクターに印象派の作品の収集を薦め、アメリカに印象派を広める懸け橋となりました。本シンポジウムでは、印象派がどのようにフランス国外へ広まり、いかに受容されてきたのかを、アメリカ、ドイツ、ロシア、そして日本を例にとって考察します。

- 日時** 7月31日（日）13:30-17:00（13:00 開場）
会場 横浜美術館レクチャーホール／入場無料（要整理券）
定員 240名（当日12:00よりレクチャーホール前で整理券配布）

プログラム

- 13:30-13:35 挨拶 逢坂恵理子（横浜美術館館長）
13:35-14:55 基調講演 ナンシー・モウル・マシューズ氏
「カサット、印象派、そしてフランスとアメリカの交流」（逐次通訳）
15:00-15:20 プレゼンテーション① 池田祐子氏「ドイツにおける印象派受容とその展開」
15:25-15:45 プレゼンテーション② 勅山昌夫氏「ロシアにおける印象派の受容について」
15:50-16:10 プレゼンテーション③ 三浦 篤氏「日本における印象派コレクションの形成：
林忠正、大原孫三郎、松方幸次郎を中心に」
16:20-17:00 パネルディスカッション・質疑応答
コーディネーター：沼田英子（横浜美術館主席学芸員／本展企画者）

講師プロフィール

ナンシー・モウル・マシューズ

ウィリアムズ・カレッジ美術館ユージェニー・ブレンダーガスト名誉主席学芸員および名誉講師。ニューヨーク大学インスティテュート・オブ・ファイン・アーツ博士号取得。1984年から2010年までウィリアムズ・カレッジ美術館で多数の展覧会を企画。近年の展覧会企画に *Moving Pictures: American Art and Early Film, 1880-1910* (2005)や *Prendergast in Italy* (2009)などがある。*Cassatt and Her Circle: Selected Letters* (New York: Abbeville Press, 1984)、*Cassatt: A Retrospective* (New York: Hugh Lauter Levin Associates, 1996)、*Mary Cassatt: A Life* (Yale U. Press, 1998)などカサットについての著書、論文多数。カサット研究の第一人者。2013年よりテレビ番組「ナンシー・マシューズのアート・ワールド」で司会を務める。

池田祐子 (いけだ ゆうこ)

京都国立近代美術館主任研究員。大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士後期課程修了。専門はドイツ語圏の近代美術・デザイン史。展覧会企画に、「クッションから都市計画まで—ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927」(2002/03)、「パウル・クレー—おわらないアトリエ」(2011)など多数。最近の論文に「ユリウス・マイアー=グレーフェとヘルマン・ムテジウス—雑誌『Dekorative Kunst (装飾芸術)』創刊時の書簡について」(京都国立近代美術館研究論集『CROSS SECTIONS』Vol.7、2015)や「グロピウス：芸術と産業をめぐる華麗なる一族—ディオラマ、工芸博物館、そしてバウハウス」(尾関幸編『西洋近代の都市と芸術4 ベルリン—砂上のメトロポール』竹林舎、2015)など。

榎山昌夫 (もみやま まさお)

神奈川県立近代美術館 主任学芸員。ニューヨーク大学大学院博士課程退学、MA(美術史・考古学)取得。学習院大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。『世界の彫刻 1000 の偉業』(二玄社、2013)、『世界の建築 1000 の偉業』(二玄社、2015)などの翻訳書、「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究：報告書」(神奈川県立近代美術館、2016.3)などの論文多数。チャペック兄弟、シュヴァンクマイエル、ノルシュテイン、レーピンなどロシア・東欧を中心に展覧会を手掛ける。現在、神奈川県立近代美術館で開催中の「クエイ兄弟—ファントム・ミュージアム—」展(2016年7月23日—10月10日)も担当。

三浦 篤 (みうら あつし)

東京大学大学院総合文化研究科教授。

1984年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学修士課程修了。同博士課程進学後、1985年にフランス政府給費留学生として渡仏し、パリ第4大学美術考古学研究所で西洋近代美術史を専攻。専門は西洋近代美術史、特に19世紀フランス絵画史(マネ、ファンタン=ラトゥール、アカデミスム絵画など)と日仏美術交流史(ジャポニスム研究、日本近代洋画史など)。主な著書は、『まなざしのレッスン 1 西洋伝統絵画』(東京大学出版会、2001)、『近代芸術家の表象 —マネ、ファンタン=ラトゥールと1860年代のフランス絵画』(東京大学出版会、2006)、『名画に隠された「二重の謎」—印象派が「事件」だった時代—』(小学館、2012)、『まなざしのレッスン 2 西洋近現代絵画』(東京大学出版会、2015)など多数。2015年にフランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。

問合せ：ハローダイヤル 03-5777-8600

展覧会公式サイト <http://cassatt2016.jp/>